



## 生物多様性の保全

# 生物多様性への取り組み

生物多様性を損なう要因としては、乱獲、乱開発、汚染、そして地球温暖化や気候変動などがあげられますが、モビリティカンパニーであるHondaの企業活動との関連が特に強いのは、温室効果ガスや各種汚染物質の排出などによる環境負荷の増大であると考えられます。

Hondaは、生み出す製品と企業活動による環境負荷をミニマム化することが生物多様性の保全に対する最大の貢献だと考え、2011年に環境技術の追求と企業活動での取り組みを中心に、地域共生の取り組みも加えた「Honda生物多様性ガイドライン」を制定しました。

### Honda生物多様性ガイドライン

#### 【基本的な考え方】

Hondaは、「Honda環境宣言」における“地球環境保全”の重要な取り組み課題として“生物多様性保全”を認識し、企業活動との調和を図っていきます。

#### 重点取り組み領域

##### 1. 環境技術の追求

低燃費車、次世代自動車、エネルギー創出等の環境負荷物質低減技術の開発と普及により、生物多様性の保全に貢献します。

##### 2. 企業活動での取り組み

効率の追求による環境負荷物質の低減と資源の有効活用を推進します。

##### 3. 地域社会との連携

Hondaが「ふるさとの森」「ハローウッズ」等で培ってきた“生態系を大切にしてきたノウハウ”を活かし、ステークホルダーと連携・協力しながら、地域に根ざした活動を推進します。

##### 4. 情報の開示と共有

成果を開示することで、社会と情報の共有を図ります。

2011年5月制定